

令和6年度 佃島小学校 自己評価報告書

学校名：中央区立佃島小学校

所在地：中央区佃2-3-1

校長名：岡部 君夫

児童数 755人

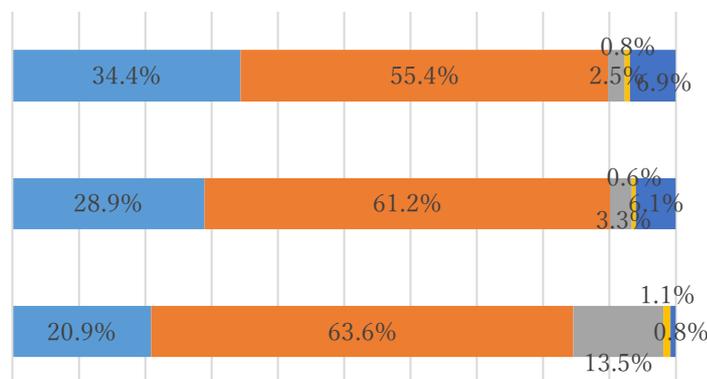
学級数 25学級

教員数 33人

重点目標の達成状況及び取組状況

重点目標（保護者）

学校は「子供が主語の学校」実現のために、子どもの主体的な学びを大切に教育活動を行っていましたか

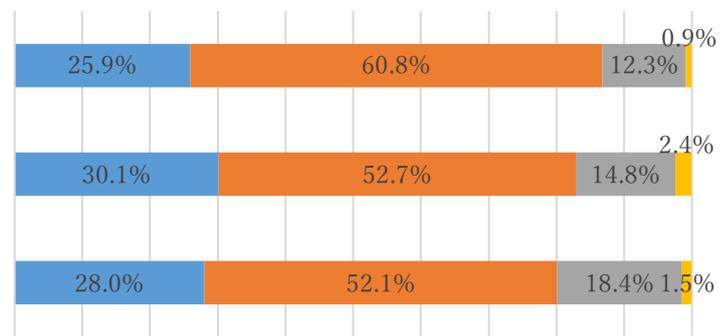


0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

■よくあてはまる ■あてはまる ■あまりあてはまらない ■あてはまらない ■分からない

重点目標（児童）

【重点目標1】授業や行事などを通して、自分で考え、学ぶ力が高まりましたか。



0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

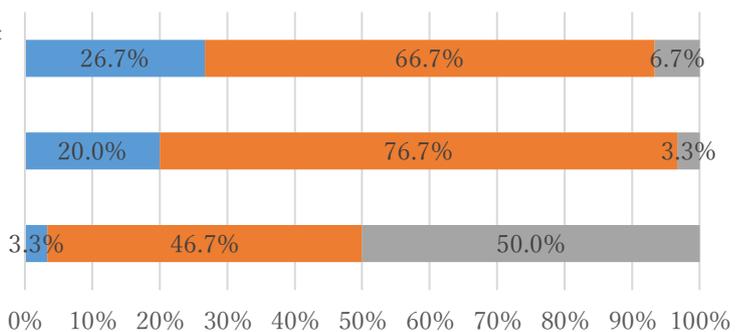
■よくあてはまる ■あてはまる ■あまりあてはまらない ■あてはまらない ■分からない

重点目標（教員）

「子供が主語の学校」実現のために、子どもの主体的な学びを大切に教育活動を行いましたか

「よいこのやくそく」に基づき、学校生活の決まりやルール・マナーの指導を行いましたか

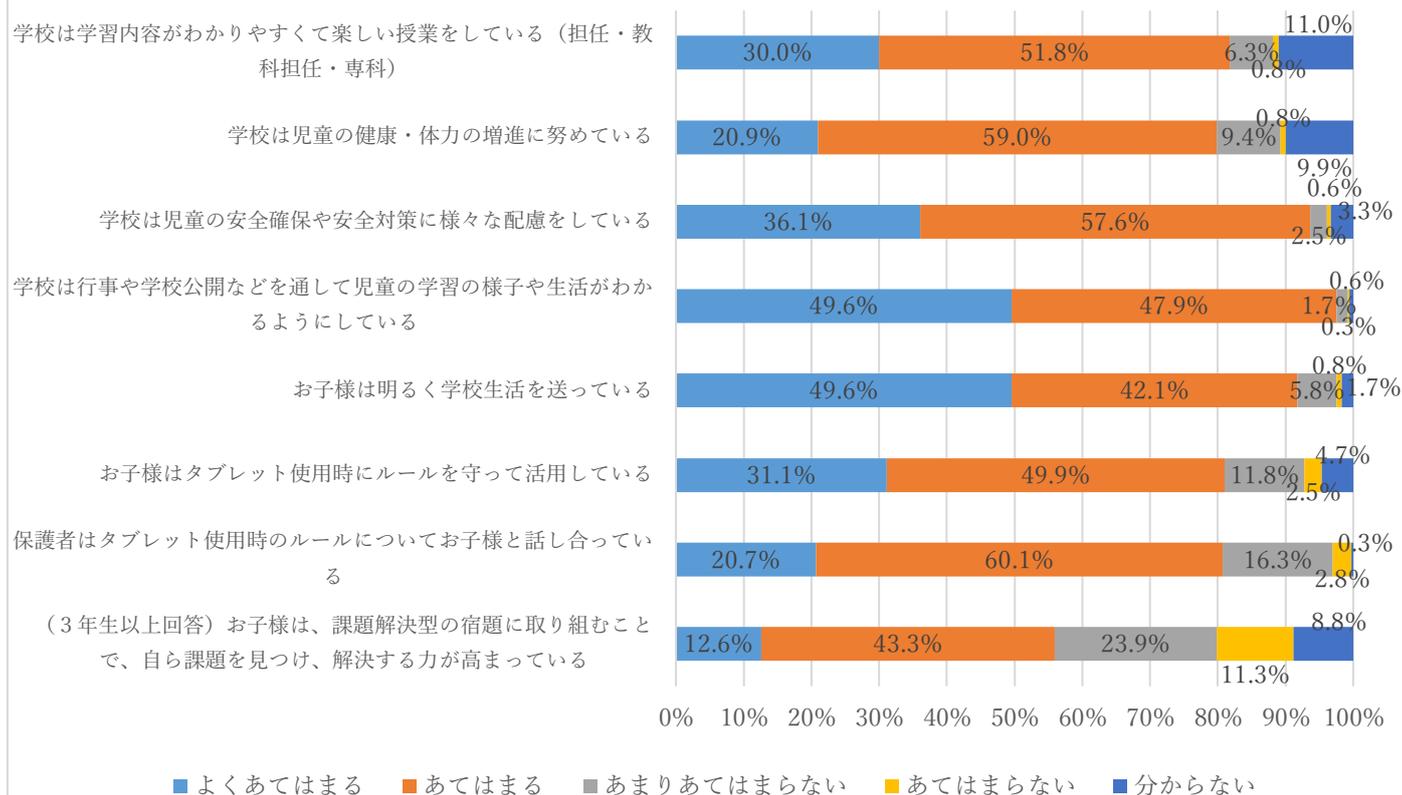
あいさつ運動をして、児童はあいさつができるようになっていますか



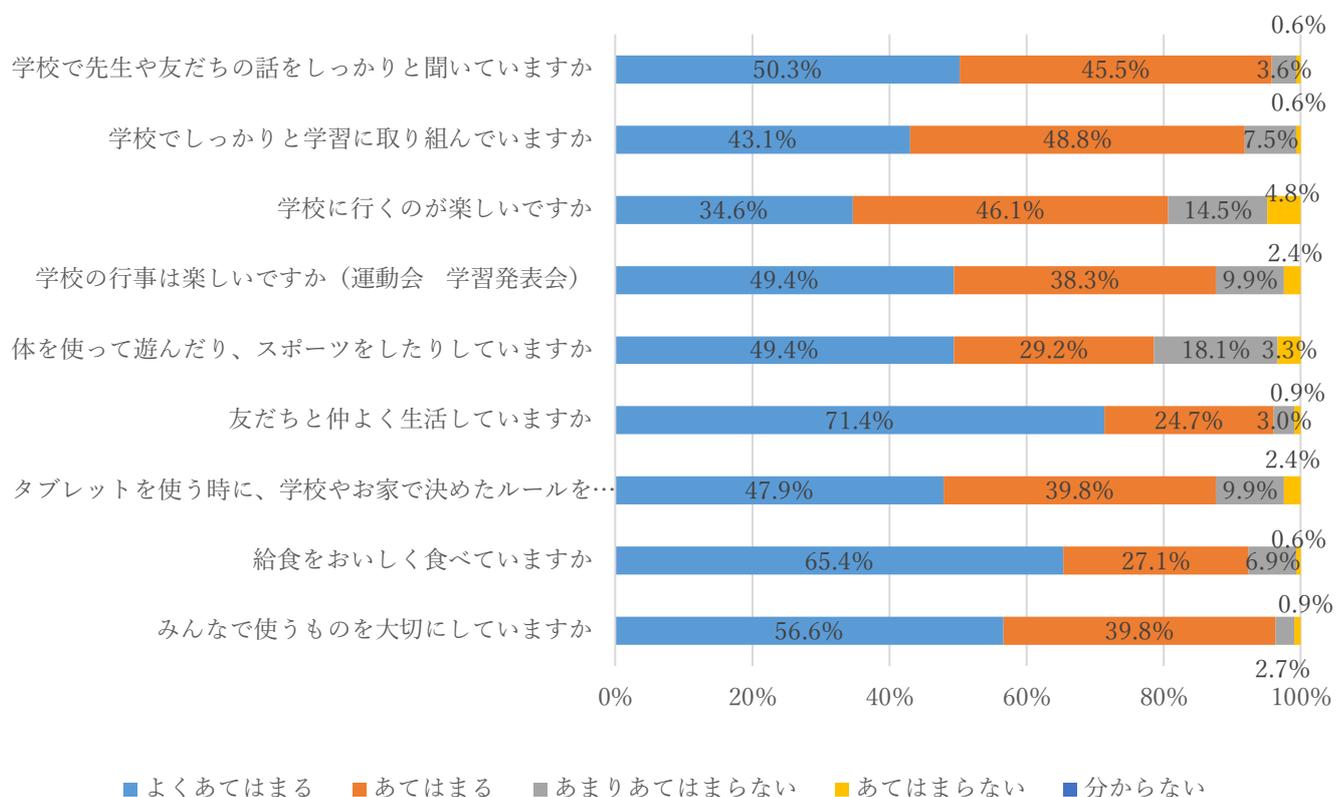
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

■よくあてはまる ■あてはまる ■あまりあてはまらない ■あてはまらない ■分からない

## 全体の評価（保護者）



## 全体の評価（児童）



## 1 重点目標の達成状況及び取組状況

### 重点目標 1

保護者の「学校は「子供が主語の学校」実現のために、子どもの主体的な学びを大切に教育活動を行っていましたか」及び教員の「学校は「子供が主語の学校」実現のために、子どもの主体的な学びを大切に教育活動を行いましたか」という項目の肯定的な評価は、保護者 89.8%、教員 93.4%と高い数値となった。また、児童の「授業や行事などを通して、自分で考え、学ぶ力が高まりましたか。」という項目の肯定的な評価は、86.7%と高い数値となった。

全体的に、高い評価となっており、児童が主体となった授業や行事を行うことが出来たといえる。一方で保護者、教員と児童を比べると児童の方が肯定的な評価が下がることから、より児童目線で取り組み方を検討したり、児童の意見から授業や行事の進め方を検討したりしていく必要がある。

### 重点目標 2

保護者の「学校は「よいこのやくそく」に基づき、学校生活の決まりやルール・マナーの指導を行っていましたか。」及び教員の「「よいこのやくそく」に基づき、学校生活の決まりやルール・マナーの指導を行いましたか。」という項目の肯定的な評価は、保護者は 90.1%、教員は 96.7%と9割を超える高い数値の結果となった。一方、児童の「学校の約束（「よいこのやくそく」）やマナーを守っていますか。」の質問については、82.8%と保護者、教員に比べて低い結果となった。

令和5年度では、保護者の「よいこのやくそく」に基づく指導についての項目の数値は 81.5%と低く、今年度の保護者の数値は 10%近く高まったことから、教員は「よいこのやくそく」を基に一貫した指導を行って保護者の方にご理解いただいているということが読み取れる。ただ、児童の行動や意識に結びついていない。

来年度も引き続き、年度初めに教員全員で「よいこのやくそく」を確認するとともに、保護者に配布、児童とともに読むことを実行していく。また、「よいこのやくそく」に基づく指導を続けるとともに、指導・称賛の際には「よいこのやくそく」に立ち戻りながら児童に示していく必要がある。

### 重点目標 3

保護者及び児童アンケートの、児童のあいさつに関する項目の肯定的な評価は、令和5年度は保護者 83.9%、児童 83.3%であったが、令和6年度は保護者 84.5%、児童 80.1%と保護者の評価が上がっているが、児童の評価はやや下がっている。一方で、教員の肯定的な評価は 50.0%と低い結果となった。

来年度も今年度に引き続き、代表委員会を中心とした「あいさつ運動」や、生活指導部を中心として行う「あいさつ週間」等の取り組みなどを通して、教員が一丸となって、今後も、児童が主体的にあいさつができるよう、指導を行っていく。

## 2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

保護者アンケートの「学校は児童の安全確保や安全対策に様々な配慮をしている」（肯定評価 93.5%）、「学校は行事や学校公開などを通して児童の学習の様子や生活がわかるようにしている」（肯定評価 97.4%）、「お子様は明るく学校生活を送っている」（肯定評価 91.6%）と8項目中、3項目は 90%を超えた。

「学校は児童の健康・体力の増進に努めている」（肯定評価 79.8%）という評価を得た。サマータイムを6月から9月まで導入し、熱中症アラートが出て外で遊ぶことができなくなる夏の昼休みの遊びを登校後の遊びにすることで、外で遊べる時間を確保する試みを始めた。来年度も引き続きサマータイムを

実施し、児童が外で遊べる時間を確保していく。

タブレットに関しては、「お子様はタブレット使用時にルールを守って活用している」の項目では肯定評価 80.9%、「保護者はタブレット使用時のルールについてお子様と話し合っている」の項目では肯定評価 80.6%という評価を得た。次年度に新タブレットが導入される際、再度ルールを確認し、学校と家庭で適切に活用ができるようにしていく。

家庭学習に関しては、「お子様は、問題解決型の宿題に取り組むことで、自ら課題を見つけ、解決する力が高まっている（3年生以上回答）」の項目では、肯定的評価 55.8%という評価を得た。今年度から課題解決型の宿題を実施し、これまでの与えられた問題を解くという典型的な宿題から、自ら課題解決型の宿題に取り組むようになり、定着に時間がかかると考える。

児童アンケートの「学校で先生や友達の話をしっかり聞いていますか」（肯定評価 95.8%）、「学校でしっかりと学習に取り組んでいますか」（肯定評価 91.9%）、「友だちと仲よく生活していますか」（肯定評価 96.1%）」と 90%を超えた。

学習では教科担任制を取り入れたことにより、教科ごとに気持ちを切り替えることで集中して、授業を受けることができた。

また友達との関わりでは、今年度より行事に実行委員制度を取り入れ、児童が主体的に活動できる場面が増えたことで友達と関わるが多くなった。「学校に行くのが楽しいですか」の項目では令和 5 年度は肯定評価 63%であったが、今年度は肯定評価が 80.7%と向上しており、来年度も児童が主体的に活動できる場を増やしていきたい。

### 3 今後の改善方策

あいさつについての項目をそれぞれ見ていくと、保護者と児童については肯定的評価が 80%を超えているが教員は 50%にとどまっている。この認識のギャップを理解した上で挨拶についての取り組みを進めていかないといけない。学校という場での、正しいあいさつの仕方を指導し、励まし、継続して取り組んでいく必要がある。

また、来年度新しいタブレットが導入される際に再度ルールを確認し、学校便りなどを通してご家庭と連携することで、学校でも家庭でもタブレットを学習活動に適切に生かせるよう指導をしていく。

さらに、課題解決型の宿題については、教員間の共通理解・共通指導のもと、保護者の方々への理解・協力を得られるよう情報発信を行い、連携を取ることで、児童の主体的な学びを大切にしていけるよう教育活動を進めていけるよう取り組んでいく。

体力向上については、マイスクールスポーツである短縄の取組をより一層強化するために、短縄週間等を設けるなどしていく必要がある。短縄の色々な運動に取り組むことができるように、体育委員を中心として技の紹介等をしていきたい。

教職員一丸となって、校長の学校経営方針の元、充実した教育活動を展開していきたい。